

Title	柳沢遊教授略歴・主要業績
Sub Title	Biographical sketch and selected scholarly achievements of professor Asobu Yanagisawa
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2017
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.109, No.4 (2017. 1) ,p.733(179)- 743(189)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20170101-0179

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

柳沢 遊 教授 略歴・主要業績

* 2017年3月31日をもって慶應義塾大学
経済学部を定年退職するのにもない、
本学会を退会する会員の略歴・主要業績
を次頁以下に掲載します。

本誌編集委員会

柳沢 遊 教授 略歴・主要業績

略 歴

- 1951年 東京都荒川区に生まれる
- 1971年 東京大学教養学部文科Ⅱ類入学
- 1976年 東京大学経済学部卒業
- 1976年4月 東京大学大学院経済学研究科修士課程入学
- 1978年 東京大学大学院経済学研究科博士課程進学
- 1982年 東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
- 1982年 日本学術振興会奨励研究員（1982年4月—83年3月）
- 1983年10月 久留米大学商学部専任講師（経済史）
- 1986年11月 東京農工大学工学部（一般教育部）助教授（経済学担当）
- 1994年4月 慶應義塾大学経済学部助教授（日本経済史担当）
- 1998年4月 慶應義塾大学経済学部教授
- 2014年4月 慶應義塾大学大学院社会学研究科委員を兼任

所属学会

- 政治経済学経済史学会
- 社会経済史学会
- 経営史学会
- 歴史学研究会
- 同時代史学会
- 日本植民地研究会
- 総合人間学会

著 書

〈単著〉

- 『日本人の植民地経験——大連日本人商工業者の歴史』青木書店、1999年（平成11年度中小企業研究奨励賞，慶應義塾賞）。

〈編著書〉

『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』（今泉裕美子・木村健二共編）日本経済評論社，2016年（第7章「一九四〇年代後半期大連営業者の職業「復帰」」295-323頁）。

『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』（浅田進史・木村健二共編）慶應義塾大学出版会，2013年（序章・第5章，1-16頁，155-194頁）。

『高度成長の時代』1巻-3巻（大門正克・大槻奈巳・岡田知弘・進藤兵・高岡裕之・佐藤隆共編）大月書店，2010-2011年。

『満鉄の調査と研究——その「神話」と実像』（松村高夫・江田憲治共編）青木書店，2008年。

『戦時下アジアの日本経済団体』（木村健二共編）日本経済評論社，2004年（「序章」1-9頁，第4章「大連商工会議所から関東州経済会へ」135-174頁）。

『帝国主義と植民地』（岡部牧夫共編）東京堂出版，2001年（「解説・帝国主義と植民地」1-12頁，「移民と植民」130-131頁，「投資と収奪」180-181頁，「断絶と連続」366-367頁）。

『貝原収蔵日記——在華日本人実業家の社会史』柏書房，1993年。

研究論文

「一九四〇年代後半期大連営業者の職業「復帰」」今泉・柳沢・木村編『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』日本経済評論社，2016年，295-323頁。

「学問的論争と歴史認識——小林英夫・福井紳一氏の「批判」によせて」（江田健治・伊藤一彦との共著）京大大学院人間・環境学研究科『社会システム研究』17号，2014年3月，179-203頁。

「高度成長期の衣服産業の展開——東京立地ワイシャツ製造卸業者の群像」『同時代史研究』第6号，2013年，3-21頁。

「工業都市大連の形成過程」柳沢・木村・浅田編『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應義塾大学出版会，2013年，第5章，155-194頁。

「序章 本書の目的と東アジア都市史研究の動向」（木村・浅田と共著）同上書，1-16頁。

「衣料品問屋の盛衰——東京の紳士服製造卸売業者を中心に」原朗編著『高度成長展開期の日本経済』日本経済評論社，2012年，第7章，191-231頁。

「「鮮満一体化」構想と寺内正毅・山県伊三郎」国立歴史民俗博物館編『「韓国併合」100年を問う』岩波書店，2011年，54-65頁。

「日本人の居留民社会」『東アジア近現代通史 3 世界戦争と改造』岩波書店，2010年，275-296頁。

「首都圏の経済変貌——商工業の発展と中枢管理機能集積地の出現」大門正克ほか編『高度成長の時代 1 復興と離陸』大月書店，2010年，107-156頁。

- 「満鉄傘下企業の設立——1920-30年代を中心に」岡部牧夫編『南満州鉄道会社の研究』日本経済評論社、2008年、165-205頁。
- 「1930年代大連の工業化」『三田学会雑誌』101巻1号、2008年4月、149-179頁。
- 「変容する市場と特産物——大豆三品の流通・生産調査」松村・柳沢・江田編『満鉄の調査と研究——その「神話」と実像』青木書店、2008年、第3章、186-226頁。
- 「序章 満鉄の調査研究活動の問題性と本書の立場」(松村・江田との共著)同上書、1-24頁。
- 「講演 日本帝国主義史研究の現段階——1930年代帝国主義の中国侵略と経済団体」札幌大学経済学部附属地域経済研究所『地域と経済』2006年3月、65-84頁。
- 「東京における中小商業企業整備」原朗・山崎志郎編著『戦時日本の経済再編成』日本経済評論社、2006年、265-292頁。
- 「戦時体制下の流通統制(1937-1945)」石井寛治編『近代日本流通史』東京堂出版、2005年、90-119頁。
- 「1940年代初頭大連日本人個人経営者の経歴について」九州大学経済学会『経済学研究』70巻4・5号、2004年4月、1-23頁。
- 「大連商工会議所から関東州経済会へ」柳沢・木村編『戦時下アジアの日本経済団体』日本経済評論社、2004年、第4章、135-174頁。
- 「序章」(木村との共著)同上書、1-9頁。
- 「日本経済と戦争——満州事変期を中心として」大日方純夫・山田朗編『近代日本の戦争をどう見るか(戦争と現代)③』大月書店、2004年、199-246頁。
- 「川口市——新興工業都市の事例研究II」大石嘉一郎・金澤史男編著『近代日本都市史研究——地方都市からの再編成』日本経済評論社、2003年、577-619頁。
- 「戦後復興期の中小商工業者」原朗編『復興期の日本経済』東京大学出版会、2002年、313-345頁。
- 「大連埠頭」松村高夫ほか編『満鉄労働史の研究』日本経済評論社、2002年、250-284頁。
- 「日本帝国主義の「満洲」支配史研究」田中明編著『近代日中関係史再考』日本経済評論社、2002年、19-41頁。
- 「現代日本のネオ・ナショナリズム——受容基盤との関連を中心に」『ポリティーク 特集：新自由主義国家とネオ・ナショナリズム』4号、旬報社、2002年、238-247頁。
- 「侵略の社会的経済的基盤」石井寛治ほか編『日本経済史3 両大戦間期』東京大学出版会、2002年、367-378頁。
- 「青島居留民団における低利資金問題の展開」日本植民地研究会『日本植民地研究』13号、アテネ社、2001年6月、1-18頁。
- 「帝国主義と在外居留民——「帝国意識」とその社会的基盤」『現代思想 特集：帝国——グローバリゼーションへの新視角』29巻8号、青土社、2001年7月、152-162頁。
- 「解説 帝国主義と植民地」(岡部牧夫との共著)『帝国主義と植民地』東京堂出版、2001年、1-12頁。

- 「現代日本における中小企業政策の転換——「戦時」から「戦後」へ」慶應義塾大学経済学部現代経済学研究会編『経済学による政府の役割分析』慶應義塾大学出版会，2001年，203-217頁。
- 「在「満州」日本人商工業者の衰退過程——1921年大連商業会議所会員分析」『三田学会雑誌』92巻1号，慶應義塾経済学会，1999年4月，47-80頁。
- 「満洲における商業会議所連合会の活動」波形昭一編『近代アジアの日本人経済団体』同文館出版，1997年，91-113頁。
- 「榎谷仙次郎——「満州」土木請負業者の世代交代」竹内常善・沢井実・阿部武司編著『近代日本における企業家の諸系譜』大阪大学出版会，1996年，238-276頁。（同書は，平成8年度中小企業研究奨励賞）
- 「戦時労働力の給源と動員——農民家族と都市商工業者を対象に」（大門正克との共著）『土地制度史学』151号，1996年，28-47頁（柳沢は，38-47頁を分担執筆）。
- 「『満洲』商工移民の具体像——日露戦後の満州渡航事情」歴史科学協議会『歴史評論』513号，1993年1月，42-53頁。
- 「大連商業会議所常議員の構成と活動——1910～20年代大連財界変遷史」大石嘉一郎編『戦間期日本の対外経済関係』日本経済評論社，1992年，301-358頁。
- 「近代日本における「国際化」の検証——日露戦争後日本人の「満州」進出と居留民社会論」尾関周二ほか編『国際化時代に生きる日本人』青木書店，1992年，121-152頁
- 「中小企業の政策」通産省・通産産業政策史編纂委員会『通産産業政策史 第1期 戦後復興期』通産産業調査会，1992年，第4章第4節，613-709頁を分担執筆。
- 「商工組合中央金庫の設立と活動」伊牟田敏充編著『戦時体制下の金融構造』日本経済評論社，1991年3月，第3部第3章，379-414頁。
- 「西武百貨店の経営近代化」由井常彦編『セゾンの歴史 上』リプロポート，1991年，73-226頁。
- 「1910年代日本人貿易商人の青島進出」久留米大学産業経済研究会『産業経済研究』27巻1号，1986年6月，203-239頁。
- 「1920年代前半期の青島居留民商工業」久留米大学産業経済研究会『産業経済研究』25巻4号，1985年3月，111-152頁。
- 「『満州事変』をめぐる社会経済史研究の諸動向」歴史科学協議会『歴史評論』377号，1981年，50-59頁。
- 「1920年代『満州』における日本人中小商人の動向」土地制度史学会『土地制度史学』92号，1981年7月，1-18頁。
- 「奉天における「奉天票暴落」問題と「不当課税」問題の展開過程」東京大学経済学研究会『経済学研究』24号，1981年12月，48-59頁。

書評・論評・解説・その他

- 「序 特集・韓国経済発展の歴史的条件——1960年代日本との比較を中心に」『三田学会雑誌』109巻2号、2016年7月、1-3頁。
- 「書評・石井寛治『資本主義日本の経済構造』（東京大学出版会、2015年）」『歴史学研究』947号、2016年8月号、57-60頁。
- 「日本国憲法の現在——戦後日本における憲法と『自衛権』論議の変遷」『総合人間学』10号、125-133頁。
- 「本棚・小野塚知二編『第1次世界大戦開戦原因の再検討——国際分業と民衆心理』（岩波書店、2014年）」東京自治問題研究所『東京』362号、2015年3月、31-36頁。
- 「本棚・『証言記録 市民たちの戦争 1・銃後の動員』（大月書店、2015年）」『東京』367号、2015年8月、38-43頁。
- 「書評・歴史学研究会編『歴史学のアクチュアリティ』（東京大学出版会、2013年）」『歴史と経済』225号、2014年10月、38-40頁。
- 「序 特集・1940年代の地域社会と人の移動——日本帝国膨張・収縮期の地域社会」『三田学会雑誌』107巻3号、2014年10月、1-10頁。
- 「本棚・原朗著『日清・日露戦争をどう見るか——近代日本と朝鮮半島・中国』（NHK出版、2014年）」『東京』360号、2014年12月、42-47頁。
- 「特集 第一次大戦勃発100年から現代を問う；浅田進史氏インタビュー」『東京』357号、2014年8月、2-23頁。
- 「書評・浅田進史『ドイツ統治下の青島——経済的自由主義と植民地社会秩序』（東京大学出版会、2011年）」『歴史と経済』221号、2013年10月、45-47頁。
- 「書評・小林元裕『近代中国の日本居留民と阿片』（吉川弘文館、2012年）」『日本植民地研究』25号、アテネ社、2013年、108-110頁。
- 「本棚・原武史『団地の空間政治学』（NHK出版、2012年）」『東京』356号、2014年7月、36-39頁。
- 「大学教員はどのように余裕を失っていったか」高等教育研究所編『私立大学の未来を拓く』2013年3月、111-125頁。
- 「本棚・新雅史『商店街はなぜ減びるのか——社会・政治・経済史から探る再生の道』（光文社、2012年）」『東京』342号、2013年3月、37-39頁。
- 「現代日本における「知」の在り方とは何か——大学教育の現状と課題から考える（特集 上井喜彦埼玉大学学長インタビュー）」（川上哲との共同）『東京』342号、2-24頁。
- 「2012年度歴史学研究会大会報告批判〈現代史部会〉——「消費者」の時代を問い直す」（矢野久との共著）『歴史学研究』900号、2012年12月、47-50頁。
- 「近代日本における『福祉国家』の未成立——その理念と現実」慶応義塾大学通信教育部『三色旗』777号、

- 2012年12月, 24-29頁。
- 「解説」(木村健二との共著)『全国商工会議所関係資料 第II期』雄松堂書店, 2011年, 9-18頁。
- 「岡部牧夫氏の日本植民地研究」『日本植民地研究』23号, アテネ社, 2011年, 80-84頁。
- 「対談 高度成長への視座——シリーズ『高度成長の時代』から現代へ」(大門正克との対談)『経済』195号, 2011年12月, 107-119頁。
- 「書評・蘭信三編『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』(不二出版, 2008年)」『日本植民地研究』23号, アテネ社, 2011年, 72-76頁。
- 「本棚・渡辺治・進藤兵編『東京をどうするか——都市と環境の都市構想』(岩波書店, 2011年)」『東京』324号, 2011年5月, 39-42頁。
- 「特集 大学教育に今, 何が求められているのか; 石井潔氏インタビュー」『東京』324号, 2011年5月, 2-25頁。
- 「許粹烈報告「20世紀韓国経済の展開過程における植民地時代」にたいする「討論」」『第10回日韓歴史家会議報告書』日韓文化交流基金, 2011年2月, 59-60頁。
- 「韓国併合」100年とわたしたちの歴史認識; 小川原宏幸氏インタビュー」(山本公德との共同)『東京』316号, 2010年8・9月, 2-25頁。
- 「本棚・青砥恭『ドキュメント高校中退——いま, 貧困がうまれる場所』(筑摩書房, 2009年)」『東京』309号, 2010年1月, 35-37頁。
- 「満鉄と大豆市場 (国際ワークショップ 近代中国と満鉄)」『環東アジア研究センター年報』第4号, 2009年3月, 56-59頁。
- 「書評・坂本悠一・木村健二『近代植民地都市 釜山』(桜井書店, 2007年)」『東アジア近代史』12号, 2009年, 231-233頁。
- 「本棚・金子勝・アンドリュー・デウィット『世界金融危機』(岩波書店, 2008年)」『東京』298号, 2009年1月, 40-43頁。
- 「書評・大門正克・安田常雄・天野正子編『戦後経験を生きる』(吉川弘文館, 2003年)」『歴史と経済』200号, 2008年7月, 70-72頁。
- 「在「満」日本人」植民地文化学会・東北淪陥一四年史総編室編『「満州国」とは何だったのか』小学館, 2008年, 第8章, 219-226頁。
- 「シンポジウム参加記・満州企業史研究の成果と課題——鈴木邦夫編『満州企業史研究』をめぐって」『日本植民地研究』20号, 2008年, 49-52頁。
- 「本棚・小田実『世直しの論理と倫理』上・下(岩波書店, 1972年)」『東京』286号, 2007年12月, 42-44頁。
- 「大石嘉一郎先生の学問——近代日本地方自治史研究を中心に」『東京』278号, 2007年3月, 20-21頁。
- 「本棚・倉沢愛子ほか編『岩波講座アジア・太平洋戦争1 なぜ, いまアジア・太平洋戦争か』」『東京』272号,

- 2006年8・9月、38-40頁。
- 「紹介・塚瀬進『満洲の日本人』（吉川弘文館、2004年）」『アジア経済』46巻4号、2005年4月、114頁。
- 「日本帝国主義の中国侵略と経済団体」慶應義塾大学三田東北亜研究会編『三田東北亜研究』2巻、金明洙韓国語訳、2006年4月、106-111頁。
- 「本棚・竹内洋『丸山眞男の時代——大学・知識人・ジャーナリズム』（中央公論新社、2005年）」『東京』265号、2006年1月、30-31頁。
- 「特集に当たって」（森武磨と共著）『年報 日本現代史「帝国」と植民地——「大日本帝国」崩壊六十年』第10号、2005年、1-5頁。
- 「本棚・渡辺治編『高度成長と企業社会 日本の時代史27』（吉川弘文館、2004年）」『東京』252号、2004年11月、34-35頁。
- 「書評・黒瀬郁二『東洋拓殖会社——日本帝国主義とアジア太平洋』（日本経済評論社、2003年）」鹿児島国際大学附置地域総合研究所『地域総合研究』31巻2号、2004年3月、130-133頁。
- 「文献紹介・大石嘉一郎『自由民権と大隈・松方財政』』『日本史文献事典』弘文堂、2003年、232頁。
- 「文献紹介・大石嘉一郎『近代日本の地方自治』』『日本史文献事典』弘文堂、2003年、232-233頁。
- 「文献紹介・大石嘉一郎『日本資本主義史論』』『日本史文献事典』弘文堂、2003年、233頁。
- 「文献紹介・柳沢遊『日本人の植民地経験』』『日本史文献事典』弘文堂、2003年、1274頁。
- 「近代都市構造史研究会の活動と成果その1——『近代日本都市史研究』刊行に寄せて』『評論』135号、日本経済評論社、2003年2月、6-9頁。
- 「書評・曾田三郎編『近代中国と日本——提携と敵対の半世紀』（御茶の水書房、2001年）」『近きに在りて』40号、汲古書院、2001年12月、94-99頁。
- 「旧制横浜高商資料の特徴について」飯島渉・井村哲郎・柳沢遊・今泉裕美子・権上康男「植民地資料と植民地研究」横浜国立大学経済学会『エコノミア』52巻2号、2001年11月、69-75頁。
- 「解説・帝国主義と植民地」（岡部牧夫と共著）『帝国主義と植民地 展望日本歴史20』東京堂出版、2001年、1-12頁。
- 「コメント3 移民と植民」同上書、130-131頁。
- 「コメント4 投資と収奪」同上書、180-181頁。
- 「コメント6 断絶と連続」同上書、366-367頁。
- 「本棚・歴史学研究会編『戦後歴史学再考——「国民史」を超えて』（青木書店、2000年）」『東京』205号、2000年7・8月号、28-29頁。
- 「戦前戦後の浦和市の発展とその特性』『21世紀への浦和市政における行財政のあり方——合併問題の批判的検討を含めて』財団法人政治経済研究所、2000年3月、105-128頁。

- 「書評・『日本植民地鉄道史論——台湾、朝鮮、満州、華北、華中鉄道の経営史的研究』（日本経済評論社、1995年）」『社会経済史学』65巻4号、1999年11月、470-471頁。
- 「本棚・北川勝彦ほか編『帝国意識の解剖学』（世界思想社、1999年）」『東京』194号、1999年7月、24-25頁。
- 「新著紹介・柳沢遊『日本人の植民地経験——大連日本人商工業者の歴史』慶應義塾大学通信教育部『三色旗』619号、1999年10月、46頁。
- 「書評・東建記念誌編集委員会編『東京を造った話』（日本経済評論社、1998年）」東京自治問題研究所編『東京研究』東信堂、1999年5月、249-253頁。
- 「第二次大戦期の経済・社会をどうみるか——新しい研究潮流をめぐって（レビュー・エッセイ）」『唯物論研究年誌』3号、唯物論研究協会、1998年9月、207-212頁。
- 「本棚・雨宮昭一『戦時戦後体制論』（岩波書店、1997年）」『東京』179号、1998年3月、22-23頁。
- 「戦前「満洲」の経済と社会 慶應大学のプロジェクト科目」近現代東北アジア研究会『NEWS LETTER』第9号、1997年12月、73-76頁。
- 「近代日本の戦争と居留民」慶應義塾大学通信教育部『三色旗』589号、1997年4月、15-20頁。
- 「本棚・亀山純生ほか編『離脱願望』（労働旬報社、1996年）」『東京』168号、1997年3月、20-21頁。
- 「本棚・加瀬和俊『集団就職の時代——高度成長のにない手たち』（青木書店、1997年）」『東京』172号、1997年7・8号、24-25頁。
- 「1996年度歴史学研究会大会報告批判——小松久男・小熊英二報告批判」『歴史学研究』692号、1996年12月、44-47頁。
- 「『満洲工場統計速報』解題」『満洲工場統計速報』本の友社、1996年、2-7頁。
- 「戦時日本社会論の諸相——もう一つの「戦後50年」(2)」『東京』151号、1995年9月、16-17頁。
- 「本棚・成田龍一編『都市と民衆』（吉川弘文館、1993年）」『東京』136号、1994年4月、20-21頁。
- 「世界の本・ブッくりぶろ・カレル・ヴァン・ウォルフレン『日本／権力構造の謎』上、下（早川書房、1991年）」東京唯物論研究会『唯物論』65号、1991年、102-106頁
- 「一般教育・経済学の講義内容試論——学生の「理解感」を中心に」経済学教育学会『経済学教育』11号、1992年、25-32頁。
- 「東京農工大学における経済学講義の改善方向」一般教育学会『一般教育学会誌』13巻2号、1991年11月、85-89頁。
- 「東京への企業・人口集中と地域変動——高度成長期」千野陽一・高橋明善ほか『国際化時代の大都市問題』東京農工大学、1991年3月、1-43頁。
- 「史料文献紹介・日本植民地研究会編『日本植民地研究』1・2号」『歴史学研究』608号、1990年7月、63頁。
- 「本棚・東京唯物論研究会『豊かさを哲学する』を読む（粹出版社、1989年）」『東京』86号、1990年2月、

26-27 頁。

「史料文献紹介・藤田幸一郎『狂気の近代』（花伝社，1988年）」『歴史学研究』584号，1988年9月，63-64頁。

「史料文献紹介・村川庸子『アメリカの風が吹いた村——打瀬船物語（愛媛県文化振興財団，1987年）』」『歴史学研究』582号，1988年7月，63頁。

「書評・波形昭一著『日本植民地金融政策史の研究』（早稲田大学出版部，1985年）」『社会経済史学』53巻6号，1988年2月，98-102頁。

「日本史研究会大会報告批判「籠谷報告によせて」」日本史研究会『日本史研究』345号，1991年，58-62頁。

「1983年度日本史研究会大会報告批判——梅本哲世報告『日本資本主義と電力』についての若干の感想」『日本史研究』261号，1984年5月，51-54頁。

「『日本資本主義発達史講座』刊行50年記念シンポジウム参加記」『歴史学研究』512号，1983年1月，35-39頁。

「中日実業会社の設立過程とその活動」東京大学経済学部インゼミ・経友論集委員会編『経友論集』17号，1976年11月，（大石嘉一郎ゼミナール名で公刊）。